



ティッドビンベラ宇宙電波受信所の
直径 26 m のアンテナ

い雲を背景に、目には感じない速さでゆっくりと傾きを変えるアンテナを、この時ばかりは急速に動かしてくれた。天頂を向いていた、およそ 270 トンの巨体を 90° 傾けるまでに 5 分もかかったであろうか。人工の美を見せられる思いであった。

夕闇迫る中をキャンベラに急ぐ途中、路上一面に揺れ動く綿雲に出逢う。千頭を超すかと思われる、オーストラリアのシンボル、緬羊の群れである。車の音に雲は千切れ、その縞模様は千変万化、牧夫と牧羊犬がうまく追いついて道をあけてくれる。

1949 年頃、オーストラリアからの申入れで、水沢の古い天頂儀を数年間貸出したことがある。一度も使わないうちに山火事にあい、損傷を受けれが、修理して返還してきたことがある。それを設置する予定であったコレクターという名の所はキャンベラから数十キロも離れている。その途中にジョージ湖という奇妙な湖があり、何んでも 100 年とか 200 年とかの長周期で湖水が干上ってしまうという。現在は減水期に入っているそうである。この湖で野生のペリカンを見かけた。動物園でしか見かけることのできないものを野生のまま見るとは気持ちのよいものである。この国の人々は鳥獣をこよなく大切にすらしい。鳥獣もあまり人をこわがらず、極めて人なつこい点が見受けられる。鳥に似ているが、もっと可愛らしい鳥が道端に遊んでいて、車が行っても逃げようとしな。やむを得ず車を徐行させると、キョトンとし

た顔で黙迎黙送してくれる。なんとも、のんびりした風景である。路傍の木立の中に見つけたインコも同じであった。近よっても仲々逃げようとしな。木の下で手を振り、足をならしたら、漸く腰をあげて梢の方へ移動してくれた。あとで知ったことであるがインコは両足と嘴を使って木の枝を渡り歩くそうである。嘴で小枝を咬み、バランスをとって次第に上に昇ってゆく様は誠に愛嬌のある風情であった。

広漠たる大平原のあちこちに水を汲み上げるためであろうか、風車が目につく。春なお浅く、空気は冷たい。羊は枯れ草の中をゆっくりと移動してゆく、丸々と肥った小羊が、カメラを構えた私を物珍らしげに注目している。そのうちにこわくなったのか、慌ててお母さん羊のあとを追ってゆく。人の子一人見ることできない広い草原に春の陽光は燦々と降りそそいでいた。大地を育くみ、仔羊を慈しむかのように。

新刊紹介

近代物理学の誕生 I. B. コーエン著 (吉本市訳) (河出書房, 11.5×19 cm, 246+6 ページ, 定価 350 円)

本書はアメリカの物理教育研究委員会 (PSSC) の企画で出版された現代の科学の 1 冊であって、原著者はハーバード大学の科学史の教授である。本書の表題の近代物理学はニュートン力学を意味する。そこでこの日本語版では、それでも地球は動くという副題がつけてある。

ニュートン力学の誕生については、天動説、地動説のような宇宙観の変遷が基礎となっているので、本書は天文学の立場からも極めて興味深い。アリストテレスの力学と天動説がかたく結びついているところから説き起し、地動説が新しい力学を要求することを導き、ガリレオ、ケプラーの寄与のもとに、ニュートンのプリンピアの成立で終る非常に明快な講義である。天文に興味を持つ高校生以上のあらゆる人々に推奨できる書であり、一読近代力学の成立過程に通じることができよう。

(広瀬)

学会だより

松永賞贈呈候補者の推薦 学会に表記の候補者の推薦を依頼してきました。推薦要項の主な点は次の通りです。①自然科学(理学・工学系)部門、大学に在職、大正12年12月1日以後に生まれた者、②賞金 100 万円、③候補者推薦数 1 件(1 名)、④締切期日 昭和43年7月1日。詳細は各支部理事におたずね下さい。